

氏 名 結城 美佳
学位の種類 博士 (医学)
学位記番号 乙第277号
学位授与年月日 平成21年12月2日
審査委員 主査 教授 田中 恒夫
副査 教授 廣田 秋彦
副査 教授 北垣 一

論文審査の結果の要旨

食道胃内視鏡検査 (EGD) は、これまで経口法で行われていたが、最近では経鼻的細径内視鏡がしばしば行われるようになってきた。しかし、高齢者及び全身状態不良の患者における経鼻的細径EGDの有用性については検討されていなかった。そこで、申請者らは従来の経口法と経鼻法の比較を以下のごとく行った。検討 1: 65歳以上の高齢者240例を対象として、検査中の動脈血酸素分圧 (SpO_2) とrate-pressure product (RPP)を経時的に測定した。検討 2: 寝たきり患者30例を対象として、経皮的胃瘻造設 (PEG) のカニューレ交換時の経鼻的EDGの有用性を、検査後の白血球数、C-reactive protein (CRP)、および嚥下性肺炎の有無により検討した。検討1の結果、経口法EGDの SpO_2 は、経鼻法に比べて有意に低下した。検討2の結果、経口法EGDのRPPは経鼻法に比べて有意に増加し、 SpO_2 は有意に低下した。また、経口法EGDの白血球数とCRPは有意に上昇し、嚥下性肺炎が2例に認められた。したがって、経鼻的細径食道胃内視鏡検査は、高齢者やPEGを必要とする寝たきり患者でも安全に行うことができる検査法である。